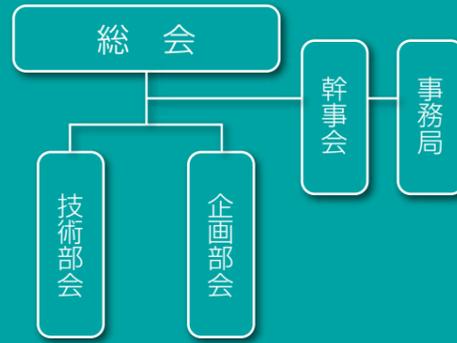


■全国高欄協会 組織概要



私たちは総会を頂点にして、各部会において、「高欄・橋梁用ビーム型防護柵製品の品質及び加工技術の向上に努め、その普及により社会に貢献する事」を目指し日々活動しております。

例として各社の製品の強度検証、品質向上の基準作成・指導や行政・設計者向けの提案書の発行、また定期的に講習会、講演会、勉強会を開催しています。

■「高欄改修のすすめ」を発行しました。



時代とともに変化する交通事故状況に対応するため、橋梁用防護柵の設置基準もこれまで大小の改訂が行われており、設計安全基準もより具体的になってきています。老朽化が見られる橋が増えてきたのを機に、協会では現在の設置基準を満足する改修をすすめるリーフレットを2015年に発行しました。重要な改修項目を分かりやすく解説しており、各方面から好評をいただいております。

■ホームページ全面リニューアル！



設立30周年事業の一貫として、ホームページを全面リニューアルいたしました。今後も会の活動や皆様にお役立ていただける情報をより積極的に発信していきます。

ホームページアドレス  
<http://www.korankyokai.jp/>



30 1986-2016  
years  
Founded Anniversary

設立30周年記念誌



# ご挨拶

30<sup>1986-2016</sup> years  
Founded Anniversary

一般社団法人全国高欄協会の設立30周年を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

当協会は、二次製品としての橋梁用防護柵・高欄のメーカーで構成されておりますが、素材はスチール（鋼製）、アルミニウム合金、ダクタイル鋳鉄、ステンレスといった異種金属メーカーの集合体という、独自の形態を持った一般社団法人であります。

昭和61年7月に『防護柵設置要綱・資料集』が社団法人日本道路協会より発行されるにあたって“同要綱の基準の内容・主旨を各メーカーに徹底させたい”との当時の建設省のご意向により、高欄の製造にたずさわるメーカーの技術力向上の場として、昭和61年2月に社団法人軽金属協会内に高欄協議会運営委員会が設置されたのが当協会のはじまりです。平成24年10月には、『一般社団法人 全国高欄協会』として新たなスタートを切りました。今般、設立30周年を迎えたことは、偏に行政をはじめ関係者の皆様の格別なご指導ご支援の賜と深く感謝申し上げます。そして、これまで協会の発展に多年にわたり尽力されました歴代役員、会員の皆様にもあらためて敬意を表します。

設立20周年よりこの10年間を振り返りますと、社会の要請であった安全・安心ニーズに応えるべく、高欄の安全性向上に取り組んだ期間であったと思われまふ。平成18年8月の高欄突破による転落事故を受け、「防護柵の設置基準・同解説」が平成20年1月に改訂されました。協会としましても設置基準に準拠する形で、橋梁上における防護柵設置の考え方をわかりやすくまとめ、周知に努めてまいりました。

日本全国の橋梁は高度経済成長期に多く設置され、老朽化が進み対応が急務な状況です。協会では、「橋梁長寿命化修繕計画」に基づいた橋梁補修という新たなニーズを受け、平成24年2月に高欄補修で使用するケミカルアンカーについての技術検討を実施し、技術と品質向上を図りました。平成27年2月には安全で高品質な高欄補修に関するノウハウを集約したパンフレット「高欄改修のすすめ」を作成し、全国官公庁やコンサル・設計事務所への提案・啓蒙活動を行った他、同年10月には静荷重試験機性能の認定制度を開始し試験品質向上に取り組みました。このような活動を通し、協会では社団法人としてより安全・安心な道づくりに少しでも貢献できるよう努めております。

私たち一般社団法人全国高欄協会は、誰もが安心して快適に利用できる橋梁の実現を目指して、これからも時代の変化に柔軟に対応し、より一層、高欄に纏わる品質・技術の向上に努力してまいりたいと存じます。今後とも、皆様のご指導ご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。

平成28年2月

一般社団法人 全国高欄協会  
会長 長徳 聡吾

## Our Activities

### 信頼と責任を更に高めるために

#### 全国高欄協会は一般社団法人になりました

私たちは昭和61年の設立以来、任意団体として活動してきましたが、去る平成24年10月29日、東京法務局城南出張所へ「一般社団法人 全国高欄協会」として登記いたしました。今後は法人という社会的信用を活かして、業界へのさらなる浸透を図ると同時に、情報収集の質を高めながら組織運営をますます活性化させて、社会の公器としての責任を果たしてまいります。



設立30周年を機に、協会のロゴマークを設定しました。3本の柱は過去・現在・未来、それを束ねる円弧は人を守り、支える製品の象徴です。高品質な製品づくりを目指す当協会の姿勢を表現しています。

#### 静荷重試験機の協会認定制度を開始しました

協会では会員企業に向けて「橋梁用ビーム型防護柵支柱 静荷重試験機認定制度」を平成27年10月より開始いたしました。これは、協会支給の供試体の試験を各社で行い、使用した試験機の構造及び試験データを協会へ提出した後、協会においてデータ内容を精査し適正であると判断された試験機に有効期限3年の認定証を発行する制度です。協会の統一基準を設けることにより、協会所属企業製品の安全性における平準化を図り、信頼性の向上を目指しています。



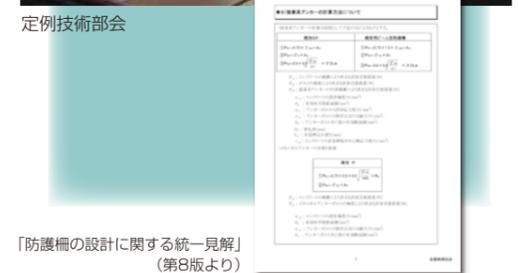
静荷重試験機と認定証

#### 組織力を発揮し、今ある課題に迅速に取り組んでいます

30年におよぶ活動の中、取り組む課題は時代とともに変わってきています。新たな問題をいち早くを発見し、解決策を検討し、発信していくことが私たちの協会の責務と考えます。近年では高度成長期に架けられた橋梁の防護柵が改修の時期を迎えてますが、現行基準に合わない地覆への設置が課題となっています。協会では各社より多様な現場報告をとりまとめ、設置可能なアンカーやベースプレート等を検討・評価して、安全な改修用防護柵開発を組織をあげて取り組んでいます。また、増加する激甚災害や新しいタイプの交通事故が防護柵に与える影響も研究し、関係機関に提言を行ったり、各社の今後の製品開発に役立てています。その他、会員の基本的設計思想のレベル統一を図る見解書も積極的に発行しており、製品の性能維持・向上に努めています。

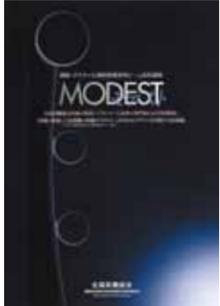
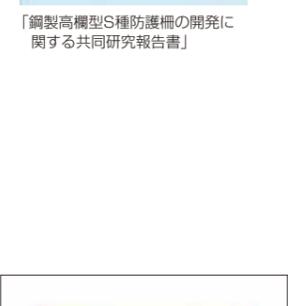
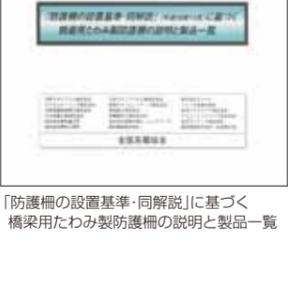
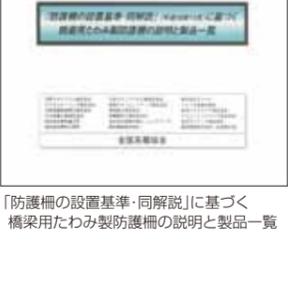
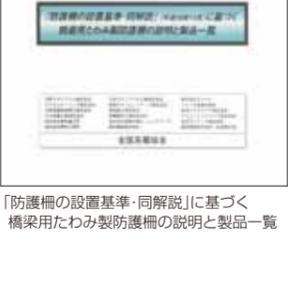
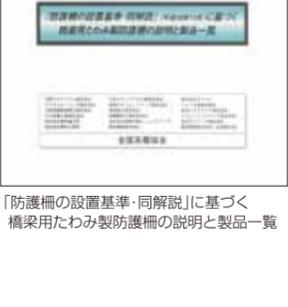


定例技術部会



「防護柵の設計に関する統一見解」  
(第8版より)

# 橋梁用防護柵の安全性を追求してきた協会30年の歩み

年(西暦)	月	活動・研究等	関連事項	年(西暦)	月	活動・研究等	関連事項
昭和61年(1986)	2月	「防護柵設置要綱・資料集」発刊にあたり、材質が異なるメーカーで要綱の理解と材質を越えた統一的な品質保証を目的とした会を発足させる。	 <p>協会発足当時の会議風景</p>	平成12年(2000)	8月	新基準合格製品の一覧表を作成。JH半壁式高欄について検討・商品化。	 <p>ホームページのトップ(旧)</p>
	2月	会の名称を「高欄協会」とする。			10月	名称を「全国高欄協会」に変更。 橋梁用ビーム型防護柵合格一覧表、風荷重の考え方、車止・親柱の強度についての検討。	
	7月	建設省(現:国土交通省)より「防護柵設置要綱・資料集」発刊。			12月	合格製品一覧表の検証、Pmax一覧表提出、各社塗装仕様検証。 ホームページ開設。	
昭和62年(1987)	6月	「防護柵設置要綱・資料集」に基づく橋梁用防護柵の開発を集中的に審議し、今後の資料集の円滑な運用や建設省土木研究所の要請(従来防護柵を補強して資料集A種B種に対応させるための実車実験)を受け、高欄協議会を発展的に継続していくことを決議。	 <p>土木研究所での実車実験の様子</p>	平成13年(2001)	4月	雪荷重について検討。伸縮の対応について検討。	 <p>「モデスト」開発風景</p>
	8月	建設省土木研究所にて鋼製の補強高欄(地覆かさ上げ)の実車衝突試験成功。			7月	アンカーボルトの垂鉛メッキとコンクリートの付着について報告。	
	10月	鋼製の補強高欄(ベース補強)、ダクタイル製補強高欄の実車衝突試験成功。			9月	アルミ製半壁式高欄の実車衝突試験成功。	
昭和63年(1988)	2月	北海道土木技術会主催の講習会で各材質別に橋梁用防護柵の技術説明を実施。	 <p>土木研究所での実車実験の様子</p>	平成14年(2002)	7月	全国高欄協会のパンフレット作成。	 <p>「モデスト」カタログ</p>
	8月	講演会「高エネルギータイプの防護柵実験の報告」 講師:建設省土木研究所 濱田氏			11月	基礎定着部について検討。	
平成2年(1990)	10月	講演会「アルミ製S種防護柵実車試験の報告」 講師:建設省土木研究所 酒井氏	 <p>「鋼製高欄型S種防護柵の開発に関する共同研究報告書」</p>	平成15年(2003)	2月	講演会「日本の人口推移と問題点」 講師:衆議院議員 福井 照氏	 <p>設立20周年記念誌</p>
	12月	会名称を「全国高欄協会」に変更。			11月	品質基準・表面処理について検証。品質保証認定書の発行について検討。	
平成3年(1991)	10月	鋼製S種防護柵の実車衝突試験成功。	 <p>「防護柵の設置基準・同解説」改定。 「防護柵の設置基準改定に関するQ&amp;A」発行。</p>	平成16年(2004)	3月	「防護柵の設置基準・同解説」改定。 「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」発刊。	 <p>「高欄改修のすすめ」</p>
平成4年(1992)	1月	講演会「第11次道路整備55箇年計画について」 講師:建設省道路局 土山氏			7月	勉強会「景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン」 講師:(株)住軽日軽エンジニアリング 三上氏	
平成5年(1993)	10月	講演会「防護柵の今後の方向について」 講師:建設省土木研究所 安藤氏	 <p>「防護柵の設置基準・同解説」に基づく橋梁用たわみ製防護柵の説明と製品一覧</p>	平成17年(2005)	10月	協会加盟10社にて「鋼製新型橋梁用車両防護柵共同開発委員会」設立。	 <p>設立20周年記念誌</p>
	平成6年(1994)	10月			講演会「最近の道路事情について」 講師:建設省道路局企画課 藤本氏	9月	
平成8年(1996)	2月	アルミ製S種防護柵の実車衝突試験成功。	 <p>「防護柵の設置基準・同解説」改定。 「防護柵の設置基準改定に関するQ&amp;A」発行。</p>	平成18年(2006)	2月	設立20周年を迎える。記念誌発行。	 <p>設立20周年記念誌</p>
	11月	3次元衝突シミュレーション開発着手。			11月	「モデスト」に関して共同開発報告書を作成。	
平成9年(1997)	1月	地覆幅500mmに設置する場合について検討。 車両用防護柵静荷重試験装置について再検証。	 <p>「防護柵の設置基準・同解説」改定。 「防護柵の設置基準改定に関するQ&amp;A」発行。</p>	平成20年(2008)	1月	「防護柵のリニューアル」作成・配布。	 <p>設立20周年記念誌</p>
	8月	全国高欄協会として証明する品質を公的機関と同質に扱ってもらえるように試験装置・試験方法の基準・製品品質保証も含め検討、規格化。			11月	「防護柵のリニューアル」作成・配布。	
平成10年(1998)	11月	「防護柵の設置基準・同解説」改定。 3次元衝突シミュレーションを用い新基準防護柵の強度検証を行う。	 <p>「防護柵の設置基準・同解説」改定。 「防護柵の設置基準改定に関するQ&amp;A」発行。</p>	平成21年(2009)	10月	全国高欄協会ニュースNo.1(高欄協会PR用)発行、全国主要官庁に配布。	 <p>設立20周年記念誌</p>
平成11年(1999)	1月	防護柵改定の動きについて報告。新基準通達について説明。 「防護柵の設置基準改定に関するQ&A」発行。			平成24年(2012)	2月	
	9月	(社)全国道路標識・表示協会四国支部主催の新基準説明会。 全国高欄協会の事業案内書作成。	10月	一般社団法人 全国高欄協会に変更。	平成27年(2015)	2月	高欄改修用パンフレット「高欄改修のすすめ」制作・配布。
12月	「防護柵の設置基準・同解説」説明書資料発行。	10月	静荷重試験機の協会認定制度を開始。	平成28年(2016)		2月	設立30年を迎える。

確かな技術、豊富な実績、強い責任感で業界をリードする会員企業

**FM レーリング株式会社**

福岡県福岡市東区東浜 2-6-45  
TEL : 092-651-7351 FAX : 092-641-7943  
ホームページアドレス  
<http://www.fmrailing.co.jp/>  
お問い合わせ  
[info@fmrailing.co.jp](mailto:info@fmrailing.co.jp)



第2室戸岬橋(高知県)



天降川橋(鹿児島県)

**KOBELCO**  
神戸製鋼グループ  
**神鋼建材工業株式会社**

兵庫県尼崎市丸島町 46  
TEL : 06-6418-2621 FAX : 06-6418-6701  
ホームページアドレス  
<http://www.shinkokenzai.co.jp/>  
お問い合わせ  
[hp\\_inquiry@shinkokenzai.co.jp](mailto:hp_inquiry@shinkokenzai.co.jp)



千住新橋(東京都)



鹿行大橋(茨城県)

**DAICHU 大阪高級鑄造鉄工株式会社**

大阪府枚方市招提大谷 2-10-1  
TEL : 072-856-2301 FAX : 072-856-2306  
ホームページアドレス  
<http://www.osaka-koukyu.co.jp/>  
お問い合わせ  
[info@osaka-koukyu.co.jp](mailto:info@osaka-koukyu.co.jp)



銭取橋(滋賀県)



玉置口2号橋(和歌山県)

**SN 株式会社 住軽日軽エンジニアリング**

東京都江東区亀戸 2-35-13 新永ビル  
TEL : 03-5628-8516 FAX : 03-5628-8535  
ホームページアドレス  
<http://www.sne.co.jp/>  
お問い合わせ  
[web-master@sne.co.jp](mailto:web-master@sne.co.jp)



月形大橋(北海道)



しらすぎ大橋(徳島県)

**Kawakin 株式会社 川金コアテック**

埼玉県川口市川口 2-2-7  
TEL : 048-259-1113 FAX : 048-259-1137  
ホームページアドレス  
<http://www.kawakinco.co.jp/>  
お問い合わせ  
[info@kawakinco.co.jp](mailto:info@kawakinco.co.jp)



武蔵水路(埼玉県)



新東松山橋(埼玉県)

**sjc 積水樹脂株式会社**

大阪市北区西天満 2-4-4 (堂島関電ビル 6階)  
TEL : 06-6365-3204 FAX : 06-6365-7181  
ホームページアドレス  
<http://www.sjc.gr.jp/dtc/jg/kk/koran/>  
お問い合わせ  
[sjc@sekisuijushi.co.jp](mailto:sjc@sekisuijushi.co.jp)



栃原橋(京都府)



南部公園(長崎県)

**ADVANCED TECHNOLOGY KOWA 株式会社 興和工業所**

愛知県名古屋瑞穂区二野町 2-28  
TEL : 052-871-7151 FAX: 052-871-9336  
ホームページアドレス  
<http://www.at-kowa.co.jp/>  
お問い合わせ  
[d-kenzai@at-kowa.com](mailto:d-kenzai@at-kowa.com)



勝内跨線橋(北海道)



新太田橋(岐阜県)

**株式会社 ダイクレ**

広島県呉市築地町 1-24  
TEL : 0823-21-1331 FAX : 0823-25-7790  
ホームページアドレス  
<http://webc.daikure.co.jp/bridge/>  
お問い合わせ  
[bridge-eigyo@daikure.co.jp](mailto:bridge-eigyo@daikure.co.jp)



中山大橋(宮城県)



郷本川橋梁(新潟県)

**昭和鉄工株式会社**

福岡県福岡市東区箱崎ふ頭 3-1-35  
TEL : 092-651-2939 FAX : 092-651-0558  
ホームページアドレス  
<http://www.showa.co.jp/>  
お問い合わせ  
[showa@showa.co.jp](mailto:showa@showa.co.jp)



丸森橋(宮城県)



南阿蘇口大橋(熊本県)

**ナスエンジニアリング株式会社**

東京都中央区京橋 1-5-8 三栄ビル 9階  
TEL : 03-3274-5630 FAX : 03-3274-5634  
ホームページアドレス  
<http://www.nas-eng.co.jp/>  
お問い合わせ  
[info@nas-eng.co.jp](mailto:info@nas-eng.co.jp)



某歩道橋(埼玉県)



J R中山駅投物防止柵(神奈川県)